

うらばなし5

さつえい②

「悲しいのではなくて、 田舎の家族がまたおいでねって。」

「観てもらおうなら、幸せな気持ちになってもらいたい。心がぽっと温かくなってもらえる作品を作りたい。」

シュ 「よくあさ」のシーン。面白かったのが、元々掛けられていた俳句を残して撮影したところだ。

土井 絵としては、後ろでエイエイオーってやってる古い家族と、それを見ている新しい家族の子供を見せたかった。俳句の内容も、温かい雰囲気を出しているし、古民家に俳句が掛かっているのも違和感が無いし、見ている人がそこまで注視するワケでもないから、あってもいいなって思いました。



C D 例えば、「南無阿彌陀仏」って書いてあったら？

土井 それは外します（笑）

シュ エイエイオーツの意図は？

土井 家族が来たから、よしやるぞっていう気入れです。新しい家族には見えてないって思っているから。

C D きっと、失敗の経験もありますもんね。

石山 めげないなあ、この家族（笑）

シュ 土井さんは物語として、温かみがある作品が好きとお聞きしました。

土井 僕が作る作品の99%はそうです。観た人が幸せとか明るくなる話じゃないと、エンターテイナーとしてやる意味がないと思っています。世間一般的な悲劇とか、芸術的な作品を否定するわけじゃなくて、どうせ観てもらったら、幸せな気持ちになってもらいたい。心がぽっと温かくなってもらえる作品を作りたい。自分の舞台や映像を作るときでも、基本的にそういう作品にしています。



シュ 最後の別れのシーンも、そんな思いで？

土井 悲しいのではなくて、田舎の家族がまたおいでねって。キャストには、ちょっと笑いながら手を振ってくださってお願いしました。

C D このシーン、新しい家族が枯山水に抜ける小さな門を使って帰るところなんか、山十郎を分かり尽くしている

気持ちの自分でも、あれって思う。こんなところに門あったかなって。左右に広いというより、奥行きのある絵が多かったです。



土井 逆に、そういう風にしか撮れなかったんです。庭を映すと広く感じられてしまうから、なるべく庭を映さないようにしました。別れのシーンも、大きな門の方に行くと、広がり過ぎだし、普通の家の門としては大き過ぎる。だから、小さい門の方から出て行くというシーンを撮ったんです。

シュ にちじょうの古民家は、イメージとしてはどんな家？

土井 それこそ、まんが日本昔話に出てくるような古民家のイメージです。

シュ 最後に流れる音楽も良かったです。

石山 土井さんのオーダーに沿って僕が探しました。

土井 ギターの温かい感じと。

石山 提出のリミットが迫る中、土井は曲探しにまで至らず、夜に稽古があるので行かなきゃいけない。だから、曲を見つける度にLINEで彼に送って、10曲くらいの中からチョイスしてもらいました。

シュ 音楽を使ったのはここだけですよね。

土井 僕はお芝居勝負で、あまり音楽を使わないんです。音楽って、効果としてはいいものになるけど、使い過ぎてもお芝居がかすれちゃうなど、お尻だけになりました。

シュ 部屋に戻るシーンも素敵でした。



土井 あれはその場の流れです。古い家族が家に帰っているところをスローモーションにする。その中で、薄井さんがアドリフで玉寄さんを見て…家族を気にしながら見る父親の感じをすごく出してくれて、良い締め方でした。

石山 あれ、使ったのはワンテイク目だよ。開けてみたら、横に荷物が積み上がっていて…ツーテイク目は、荷物は無かったけど、芝居としてはワンテイク目がいい。だから、荷物の部分をきって、ワンテイク目にしました。しかし、みんないい顔してるなー。あ、薄井さんのシャツ（笑）

土井 僕のです（笑）

「僕はお芝居勝負で、あまり音楽を使わないんです。」